

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101386		
法人名	社会福祉法人 青照会		
事業所名	グループホーム グッドライフ熊本駅前(いちよう)		
所在地	熊本市西区春日2丁目1番24号		
自己評価作成日	令和3年4月9日	評価結果市町村受理日	令和3年6月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和3年4月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所がオープンし、現在8年目を迎えます。職員一人一人「愛と和」の理念に沿って、日々、質の向上に取り組み「お一人お一人によりそう笑顔あふれる和みの「和が家」です」を目指しています。入浴等は、8年目を迎えても入居者様が不快と感じることなく週3回の入浴は継続しております。また、施設内研修、勉強会、委員会活動なども、職員のスキルアップを目指しながら質の向上に努めています。去年は、新型コロナウイルスの影響で、令和2年2月27日から施設全体が面会謝絶となりました。入居者様には施設内での活動となり、施設外のイベント行事や運営推進会議などの行事もすべて中止となり、日々、窮屈な思いをさせてしまったと思います。今年も今のところは施設外のイベント行事は中止していますが、春越し面会は再開し、入居者様も久しぶりに御家族様の顔をみられ笑顔にあふれていました。年々、認知症の症状が進行する中ですが、その人が望む暮らしや意向などを叶えられるように、グループホームグッドライフ熊本駅前職員全員で支援していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

白川の畔、熊本駅から徒歩3分にあるホームであるが、この立地を生かした駅構内への買い物や川沿いの散歩など、コロナ感染症の影響から控えざるを得ない状況が続いている。職員、桜の貼り絵を眺めながらの花見や、「屋上で散歩」「屋上でおやつレクリエーション」など、アイデアや工夫をしながらこれまでの外出に代わる楽しみ事を支援している。日頃から法人内の施設と連携を図りながら健康や安全管理に努めているが、昨今の自然災害は、はるかに想像を超えるものであり、白川に面し8階にあるホームは、3階まで川の水が上がったことを想定した訓練や、非常階段での避難を想定するなど意識をもった訓練に臨んでいる。「これまでの生活と変わらず、ご自分なりの時間を過ごして欲しい」という思いから、家庭的な雰囲気のもと家族等が気軽に訪問できるホームを目指しているが、外部の訪問を控えている現在、引き続き入居者・家族の橋渡しとなるような職員の心配りが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を職場の見える所に掲示し、職員一人一人が実践するよう心がけている。	法人全体が「愛と和」を理念として掲げ、日々確認してケアに当たるとしている。家族にはホームの体制を理解して頂き、理念は十分に浸透しているとのことである。この一年入居者への寄り添う姿勢を統一し、コロナ感染症予防を中心に関わっており、体調管理に努めたことで元気に過ぎたと振り返っている。	理念とともに、ホームとしても目標を立てることで、職員との共有認識が更に強まるものと思われ、検討されることが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	去年、新型コロナウイルスの影響で地域との交流が出来なかった。	外出制限の中で、これまで支援してきた植木祭りや初詣やどんどや見学等が支援できず、季節感を感じてもらう事も役目として捉え気分転換に天気の良い日には屋上に出ている。	8階という立地条件を生かしながら、地域を見る等検討し、外に出なくても地域と繋がる方法等の検討を望みたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事・レクレーション・普段の様子を写真に取り、廊下の掲示板に掲示している。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	去年1年間は新型コロナウイルスの影響で、運営推進会議は中止としました。活動状況、報告については、お手紙で運営推進会議の皆様へ報告している。	今年度は、議事録での報告として、対面が出来ない分参加委員の現状の聞き取りや、報告書を介して電話で意見等を聞き取りしている。家族代表にも報告すると共に、他の家族には3ヶ月毎の担当者会議時に意見交換を行っている。	対面できない家族の不安解消にも繋がるものと思われ。全家族へ運営推進会議の資料配布を検討頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	去年1年間は、新型コロナウイルスの影響で施設全体が面会謝絶となり、ボランティアなどの支援の受け入れは中止。	行政には外部評価についての相談や、法改正の問い合わせ、介護保険更新を代行し情報を発信している。また、地域包括支援センター主催の感染予防についてズームでの研修に参加する等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を通じて全職員に対し、虐待、身体拘束禁止を周知徹底している。	法人内の身体拘束適正化委員会に各ユニット代表が参加し、委員会からの情報を申し送りノートや口頭により伝達し、身体拘束や虐待の無いケアを徹底している。インシデントをもとにした話し合いや、夜間帯の転倒リスクに対してセンサーマットの使用を検討し、家族に同意を得てプランに組み入れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会に参加し、理解を深めている。また、入居者様に対しての言葉遣いなどを意識し、ケアに当たっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、成年後見制度を利用しておられる入居者様が数名おられるので、成年後見人制度の理解と必要性を考えながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明書の説明を実施し、その後、個人面談で契約を締結している。入居後、3カ月に1度ケアプランを見直し、その他利用に関する説明(入居時の施設利用料金等について)を行っている。その際は、御家族に十分納得していただけるように心がけている。また、介護保険改定後の際も説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様や御家族からの要望や意見に関しては可能な限り反映させられるようにしている。	職員は日々の生活の中で入居者の声に否定せず傾聴しており、繰り返しの言葉にも耳を傾けている。家族には対面での面会が難しい状況にあり、曜日や時間を決めた窓越し面会として、この機会を捉え意見や要望を聞き取りしている。また、4月下旬からはズームでの面会が出来る様システム環境を整えている。家族からの手紙や言葉が職員のモチベーションに繋がったと振り返っている。ホーム内外の苦情相談窓口を明確にし、第三者委員を設置していることを説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議などで入居者様や職員の個々の意見を反映させる機会を設けている。	毎月開催するユニット会議で、入居者の対応の仕方や業務・人間関係など話し合える環境を作り、管理者もケアに入りながら職員とのコミュニケーションを図りながら現場を声を聞き取りし、サービスに反映させている。職員も意見が言える環境にモチベーションを高くしてケアに当たっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給、月2回の希望休。また、職員の残業等は極力しないように勤務時間終了後に退勤している。 キャリアパスによる昇給、昇格と各付け。給料表の厳格な適用により、介護職員の処遇改善を着実に実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修会、勉強会が行われ、常に知識技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回の拡大会議にて、各事業所の管理者等が、意見交換する機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一人一人の入居者様の問いかけに耳を傾け、入居者様が安心して過ごせるように会話をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者会議時に御家族と話す時間を設けている。また、御家族からの意見等、苦情等には迅速に対応出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様が新規で入居された場合には、事前に生活状況の記録も提供していただき、事前に対応出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の個々の状態に応じて介助の仕方や方法を変え、可能な限り本人様のADLを活用するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の意見も柔軟にケアの中に取り入れ、御本人の実際の暮らしに反映させられるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が長年愛用してきた物品などを引き続き居室に置いたり、行事(レクレーション)等で写真撮影した写真なども居室に飾るようにしている。	ご夫婦での入居や、家族との関係性の継続に窓越しでの面会等もあるものの、これまでのように自宅に帰る事の支援はコロナ禍に難しい状況にある。職歴を生かした献立作りへの関わりや、書き初め、読書等趣味を継続して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	親しい入居者様同士だけでなく、全員が参加が出来る機会を職員が作り、孤立させないよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院されている時も御家族や病院に連絡を取っている。また、御家族のフォローや入居者様の分からないことなどにも相談にのり、関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の個々の思いを聞き入れ、それに基づいたケアを提供出来るように努めている。	日々職員は入居者に寄り添い、傾聴により思い等を聞き取りしている。また、笑顔も意思として捉えている。意思疎通困難な方には、表情を見ながらケアに反映させ、衣服等選択肢を投げかけたり、耳が遠い方には耳元で話しかけながら、本人の意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の過去の生活歴など情報が記載されたカルテを通して、全職員が情報共有出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日、その日によって入居者様の状態も変わってくる場合があるため、常日頃、状態の変化の把握に勤めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在、新型コロナウイルスの影響で直接家族と面談は出来ないが、ケアプランの見直しについては3カ月1回と継続し、電話連絡で担当者会議を実施している。その際、日々の状態も御家族に報告している。	家族との対面が出来ない状況にあり、電話により要望等を聞き取りし、短期目標3ヶ月毎にモニタリングにより目標の達成度を見極めている。本人・家族の意見等をもとに、今後の対応を検討し、プランを見なしている。家族には24時間シートをもとに説明しており、同意を得て新たなプランを作成している。自立に向けたプラン等、具体的なプランを職員のケアに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特変などがあった場合や日常の様子を「経過記録」に記載し、ケアの実践や介護計画の見直しをしている。また、各入居者様の体調管理、排泄状況、食事摂取量等の様々な情報を職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な病院受診の際の送迎や入居者様の御家族に電話したいと訴えがあった場合は迅速に対応している。また、入居者様の状況に応じて柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	去年は新型コロナウイルスの影響で、施設外の行事などはすべて中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は入居者様や御家族の希望を重視している。緊急の場合や御家族が都合が悪い時には、病院への送迎を行っている。	本人・家族の希望するかかりつけ医を確認し、現在3か所の医療機関より、月1～2回の往診が行われている。緊急時は主治医に連絡し指示を仰いでおり、受診は基本的に家族としているが、状況に応じホームでも応じている。専門医の受診は家族によって支援され、結果を共有している。口腔ケアについては、協力歯科医による入居時の口腔内チェックと、必要に応じて訪問治療が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が毎朝、夕と各フロアを訪れ入居者様の体調管理を行っている。その際に職員が看護師へ情報を提供し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に病院を訪問し、入居者様の経過を病院関係者に尋ねている。また、退院後の生活で注意することなど相談に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期、看取りに関しては、早い段階から御家族と話し合いの機会を持ち、事業所の方針を御家族、関係職員等で共有し、チームによる支援に取り組んでいる。また、看取りについては、勉強会を開催しながら職員のスキルアップを目指していきたいと思う。	入居時に指針をもとにホームの重度化・終末期支援について説明を行い、その時点での意向を書面に残している。ホームで最終まで支援されることは家族にとっても安心に繋がっており、必要に応じて家族と話し合いの機会を持ち、相談事に応じている。ホーム内の看護職員が中心になって勉強会を開催し、異常の早期発見に繋がる健康確認(脈・顔色など)についても学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時におけるマニュアルも日中、夜間を通して作成している。また、急変時の対応や感染についても研修に参加し、スキルを身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2度の火災訓練、水害、地震等の訓練を実施し、入居者様や職員の避難経路などを訓練で確認し、全職員が身につけることが出来ている。	火災・自然災害に備えた訓練を実施しており、水害訓練では建物3階まで白川の水があがってくることを想定して行っている。また、火災訓練では非常階段の使用を想定して実施している。日頃の安全管理は掃除の中でも徹底することを管理者は伝えており、設備の破損などが見られた際は、速やかに法人へあげている。災害備蓄はホーム内で管理し、各ユニットにリストを配布している。	ホームは建物の8階にあることから、今後も法人内で連携を図りながら、災害対策に取り組まれることを期待したい。また、外気浴など屋上への移動を重ねておくことも、有事の際の避難に活かされるものと思われる。災害対策は家族の気になる点の一つと思われる。感染症収束後は運営推進会議や家族の協力を得ながら訓練を行い、意見を受ける事も良いと思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや接し方などに気をつけ一人一人に配慮しながら対応している。	一人ひとりに応じた声掛けや対応に配慮することを共有し支援している。管理者は職員の言葉で気になる時は、その都度適切な言葉使いを伝えている。呼称は家族にも確認を行い、苗字や親しみ、反応などから下の名前でも対応している。訪問カットは状況を見て実施しているが、美容室でのカットを希望される方もおられる。衣服の選択は入居者と一緒に行い、希望を聞きながら必要に応じてサポートを行っている。また、家族も衣替え時や誕生日など好みの衣類を用意されている。	来訪者に記入いただく用紙については、プライバシーの点から個別記入が望ましいと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めた事を押し付けるようなことはせず、あくまでも入居者様に決めていただくように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人が自由に生活が出来るように努め、決して無理な対応はしないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日、着る洋服に関しては、入居者様に決めていただき、入居者様の意向を尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「おやつ作り」などの行事を設定し、職員と入居者様が共に作業する機会を設けている。	献立作成や調理は法人厨房で行っており、ホームは各ユニットでご飯を炊いている。嚥下状態に応じてソフトやペースト食、お粥などで提供している。栄養士は月1回ホームを訪れ、入居者の食の進み具合を確認したり、職員からの聞き取りを行っている。お節や子どもの日にもオムライスを準備したり、精進・郷土料理など季節に応じた行事食も工夫されている。水分補給としては、毎食時やおやつ、入浴後、要望などからお茶に加え、スポーツドリンクやコーヒー、家族からの差し入れされたものなど、好みも聞きながら提供している。	見晴らしの良い屋上で、おやつを楽しみながらの外気浴は、入居者にとって心和むひと時と思われ、引き続き支援されることを期待したい。また、行事の一つとして取り組んでいるおやつ作りは、楽しみと思われる。季節に応じたおやつ作りに継続して取り組まれることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外にも10時、入浴後、おやつ時、また喉が渴いた等の訴えがあった場合は水分摂取をしていただき、脱水予防に努めている。また、食事摂取量や毎月の体重測定を行いながら、栄養スクリーニングを実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯を使用されている方には居室まで付き添い、声掛けと一部介助を行っている。また、口腔時の状態や本人様からの訴えなどが見られた時には、早期に治療が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	歩行や立ち上がり、ズボンの上げ下げなど、出来ることは本人様にやっていたき、自立に向けた支援を行っている。	日中は全員トイレでの排泄を支援しており、現在は殆んどの方がリハビリパンツを使用されているが、パットを併用しながら布パンツで過ごされる方もおられる。自立で排泄される方もユニットに5～6名おられ、職員は継続できるよう、プライバシーに配慮しながら必要に応じた見守りを行っている。居室にトイレが備わっており、夜間も自室のトイレを使用されている。排泄状況は記録や申し送りなどで共有し、排便においては毎朝看護職員に報告している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の有無を確認し、記録して毎朝看護師に報告している。また、服薬にたよらずにオリゴ糖で便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴回数は原則週3回入浴していただいている。拒否等が強い時は、無理に入浴せず、時間をずらしながらタイミングを大切にしている。日曜日も予備日として入浴が出来るようにしている。	入浴は基本的に週3回、月曜から土曜まで、午前・午後で身体状況に応じ、リフト浴、一般浴を使い分けながら支援している。一番風呂への希望や「午前には入りたくない！」等の希望に応じ無理なく入ってもらえるようにしている。拒否がある場合には時間をずらしたり、脱衣所に好きな物や関心のある物(ぬいぐるみ他)の用意、足浴から誘導するなど工夫している。	これまで職員が持参した柚子を使った入浴が行われている。季節湯の支援として、菖蒲や柚子は入手しやすく、入居者にとっては懐かしいものと思われる、今後も継続して取り組まれることが期待される。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の就寝時間も異なっているため、それぞれに応じた支援をしている。また、巡視時間は2時間。体調状態が悪い入居者様については、1時間起きに巡視を行い観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスがないように必ず職員間での2重チェックを行い、服薬のマニュアルを確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや洗濯物を畳むのを手伝ってもらったり食器洗いを手伝ってもらったりして役割等を持てるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	去年は新型コロナウイルスの影響で、外出等は出来ていなかったが、屋上などを活用することで季節等を感じていただきながら、気分転換をしていただいた。	今年度は以前のような外出が出来ていないが、屋上で外気浴をしながら季節を感じてもらおうようにしており、花見会を予定している。屋上でおやつやレクリエーションを楽しむ姿は写真からも確認された。コロナ禍以前は家族の協力により自宅への帰省を楽しみにされていた方は、「まだ帰れないの」と要望されているようである。	感染症やホームが階上にあることから、屋上での活動は、何より外気に触れる機会であると思われる。今後も職員のアイデアによって有意義な支援を継続されることを期待したい。また、ビデオやDVD、雑誌などを活用し、外出気分を味わうことも良いと思われる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては、ほとんどの方が管理出来ないため、すべて御家族が管理している。必要時は御家族へ連絡を取り準備していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様と御家族との電話、面会、お手紙のやり取りに関し、必要に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物を入居者様と一緒に作成し、居室やフロアの飾り、季節感のあるスペース作りをしている。	各ユニットには書道の作品や、入居者と一緒に季節ごとの壁面制作を行い掲示している。この春は桜の貼り絵を見ながら花見を行っている。リビングにある段上がりの畳の間は、開所当時のような活用には至っていないが、2~3名の方は休憩の腰掛に利用されている。家族の面会は1階で毎週金曜日がグループホームの支援日であったが、今月末よりズームにより行われることとなっている。感染症への対応として、居室も含めこれまで以上に換気や掃除、消毒が徹底されている。	家族から花の差し入れがあった際はリビングなどに飾られているようである。外出を控えており、季節の草花を間近に見る機会はないと思われ、今後は努めて職員が採集し共用空間に取り入れていただきたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルで入居者様同士で会話を楽しんだり、独りになれるような居場所作りにも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から自宅で使用されていた物を居室に置いたり、写真を飾ったりすることで過ごしやすい居室作りをしている。	自宅で使用されていた家具や馴染みの品を持ち込んでもらうことで、安心して過ごせる環境に努めている。トイレや洗面台が設置された居室には、テレビや冷蔵庫、思い出の写真の他、遺影が置かれた部屋もある。医療機関から入居者された方は、持ち込みが限られているようであり、過ごしやすい空間となるよう物品以外(作品の掲示など)での対応について検討している。家族の面会を控えており、衣類の管理など職員が行っており、洗濯類は受け取りボックスで家族と職員が連携をされている。	家族にとって入居者の普段の様子と共に、居室内の状況も気になる点と思われる。安心に繋がるような発信が期待される。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに頻回に行かれる方については、数名ベッドを移動している。また、夜間帯に歩行状態が不安定な方については、必ずセンサーマットを使用し、職員が付き添い、転倒予防に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101386		
法人名	社会福祉法人 青照会		
事業所名	グループホーム グッドライフ熊本駅前(りんどう)		
所在地	熊本市西区春日2丁目1番24号		
自己評価作成日	令和3年4月9日	評価結果市町村受理日	令和3年6月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和3年4月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所がオープンし、現在8年目を迎えます。職員一人一人「愛と和」の理念に沿って、日々、質の向上に取り組み「お一人お一人によりそう笑顔あふれる和みの「和が家」です」を目指しています。入浴等は、8年目を迎えても入居者様が不快と感じることなく週3回の入浴は継続しております。また、施設内研修、勉強会、委員会活動なども、職員のスキルアップを目指しながら質の向上に努めています。去年は、新型コロナウイルスの影響で、令和2年2月27日から施設全体が面会謝絶となりました。入居者様には施設内での活動となり、施設外のイベント行事や運営推進会議などの行事もすべて中止となり、日々、窮屈な思いをさせてしまったと思います。今年も今のところは施設外のイベント行事は中止としていますが、窓越し面会は再開し、入居者様も久しぶりに御家族様の顔をみられ笑顔にあふれていました。年々、認知症の症状が進行する中ですが、その人が望む暮らしや意向などを叶えられるように、グループホームグッドライフ熊本駅前職員全員で支援していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿って笑顔あふれる場所になるように理念を忘れずに実施している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	去年、新型コロナウイルスの影響で地域との交流が出来なかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事・レクレーション・普段の様子を写真に取り、廊下の掲示板に掲示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	去年1年間は新型コロナウイルスの影響で、運営推進会議は中止としました。活動状況、報告については、お手紙で運営推進会議の皆様へ報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	去年1年間は、新型コロナウイルスの影響で施設全体が面会謝絶となり、ボランティアなどの支援の受け入れは中止。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会に参加し、言葉遣いなどに注意を行いケアにあっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会の勉強会に参加し、内容を職員同士で共有している。また、日々のケアで虐待と思わせるような傷などがないか注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、成年後見制度を利用しておられる入居者様が数名おられるので、成年後見人制度の理解と必要性を考えながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明書の説明を実施し、その後、個人面談で契約を締結している。入居後、3カ月に1度ケアプランを見直し、その他利用に関する説明(入居時の施設利用料金等について)を行っている。その際は、御家族に十分納得していただけるよう心がけている。また、介護保険改定後の際も説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様や御家族からの要望や意見に関しては可能な限り反映させられるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議などで入居者様や職員の個々の意見を反映させる機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給、月2回の希望休。また、職員の残業等は極力しないように勤務時間終了後に退勤している。 キャリアパスによる昇給、昇格と各付け。給料表の厳格な適用により、介護職員の処遇改善を着実に実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修会、勉強会が行われ、常に知識技術の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回の拡大会議にて、各事業所の管理者等が、意見交換する機会がある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一人一人の入居者様の問いかけに耳を傾け、入居者様が安心して過ごせるように会話をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者会議時に御家族と話す時間を設けている。また、御家族からの意見等、苦情等には迅速に対応出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様が新規で入居された場合には、事前に生活状況の記録も提供していただき、事前に対応出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の個々の状態に応じて介助の仕方や方法を変え、可能な限り本人様のADLを活用するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の意見も柔軟にケアの中に取り入れ、御本人の実際の暮らしに反映させられるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の大切な物などをそばに置き、いつでも入居者様が触れられるよう環境作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が孤立しないように積極的に声掛けを行い、お互いが支え合えるように支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院されている時も御家族や病院に連絡を取っている。また、御家族のフォローや入居者様の分からないことなどにも相談にのり、関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いや暮らし方の希望を把握して、希望に添えるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する前の生活歴を把握して、家と同じようにご自由に過ごしていただけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子や食事摂取などしっかりと把握し、変化に気づくように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在、新型コロナウイルスの影響で直接家族と面談は出来ないが、ケアプランの見直しについては3カ月1回と継続し、電話連絡で担当者会議を実施している。その際、日々の状態も御家族に報告している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録など日頃の様子を記録し、気づいたことや変化があればその都度情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な病院受診の際の送迎や入居者様の御家族に電話したいと訴えがあった場合は迅速に対応している。また、入居者様の状況に応じて柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	去年は新型コロナウイルスの影響で、施設外の行事などはすべて中止としている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は入居者様や御家族の希望を重視している。緊急の場合や御家族が都合が悪い時には、病院への送迎を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が毎朝、夕と各フロアを訪れ入居者様の体調管理を行っている。その際に職員が看護師へ情報を提供し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に病院を訪問し、入居者様の経過を病院関係者に尋ねている。また、退院後の生活で注意することなど相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期、看取りに関しては、早い段階から御家族と話し合いの機会を持ち、事業所の方針を御家族、関係職員等で共有し、チームによる支援に取り組んでいる。また、看取りについては、勉強会を開催しながら職員のスキルアップを目指していきたいと思う。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時におけるマニュアルも日中、夜間を通して作成している。また、急変時の対応や感染についても研修に参加し、スキルを身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2度の火災訓練、水害、地震等の訓練を実施し、入居者様や職員の避難経路などを訓練で確認し、全職員が身につけることが出来ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや接し方などに気をつけ一人一人に配慮しながら対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めた事を押し付けるようなことはせず、あくまでも入居者様に決めていただくように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人が自由に生活が出来るように努め、決して無理な対応はしないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日、着る洋服に関しては、入居者様に決めていただき、入居者様の意向を尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「おやつ作り」などの行事を設定し、職員と入居者様が共に作業する機会を設けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外にも10時、入浴後、おやつ時、また喉が渴いた等の訴えがあった場合は水分摂取をしていただき、脱水予防に努めている。また、食事摂取量や毎月の体重測定を行いながら、栄養スクリーニングを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯を使用されている方には居室まで付き添い、声掛けと一部介助を行っている。また、口腔時の状態や本人様からの訴えなどが見られた時には、早期に治療が出来るように努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	歩行や立ち上がり、ズボンの上げ下げなど、出来ることは本人様にやっていただき、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の有無を確認し、記録して毎朝看護師に報告している。また、服薬にたよらずにオリゴ糖で便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴回数は原則週3回入浴していただいている。拒否等が強い時は、無理に入浴せず、時間をずらしながらタイミングを大切にしている。日曜日も予備日として入浴が出来るようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の就寝時間も異なっているため、それぞれに応じた支援をしている。また、巡視時間は2時間。体調状態が悪い入居者様については、1時間起きに巡視を行い観察している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスがないように必ず職員間での2重チェックを行い、服薬のマニュアルを確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや洗濯物を畳むのを手伝ってもらったり食器洗いを手伝ってもらったりして役割等を持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	去年は新型コロナウイルスの影響で、外出等は出来ていなかったが、屋上などを活用することで季節等を感じていただきながら、気分転換をしていただいた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては、ほとんどの方が管理出来ないため、すべて御家族が管理している。必要時は御家族へ連絡を取り準備していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様と御家族との電話、面会、お手紙のやり取りに関し、必要に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物を入居者様と一緒に作成し、居室やフロアの飾り、季節感のあるスペース作りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやテーブルで入居者様同士で会話を楽しんだり、独りになれるような居場所作りにも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から自宅で使用されていた物を居室に置いたり、写真を飾ったりすることで過ごしやすい居室作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに頻回に行かれる方については、数名ベッドを移動している。また、夜間帯に歩行状態が不安定な方については、必ずセンサーマットを使用し、職員が付き添い、転倒予防に努めている。		